

県内企業2022年9月中間決算

	売上高		経常損益		純損益		配当
バローHD							
(連)	374,661	(2.4)	11,106 (▲20.9)		5,736 (▲6.0)		27.00
(予)	750,000		25,000		11,500		58.00
セイノーHD							
(連)	306,366	(3.9)	16,751 (18.3)		9,915 (14.4)		11.00
(予)	620,300		34,430		21,700		—
TYK							
(連)	13,998	(9.5)	2,042 (12.2)		1,110 (16.6)		6.00
(予)	26,000		3,555		1,788		10.00
信和							
(連)	8,909	(8.2)	1,077 (▲11.5)		744 (▲12.1)		0.00
(予)	17,000		2,120		1,465		43.00
レシップHD							
(連)	5,083	(0.0)	■774 (拡大)		■494 (縮小)		0.00
(予)	18,500		430		80		5.00
日本一ソフトウェア							
(連)	2,367 (▲34.3)		635 (▲50.9)		426 (▲51.1)		0.00
(予)	5,588		1,236		830		4.00

9月中間決算

バローホールディングス（HD）が11日発表した2022年9月中間連結決算は、売上高に当たる営業収益が前年同期比2・4％増の374億6100万円と過去最高を更新した。前期に子会社化した関西のスーパーなどが好調だった。スーパーマーケット（SM）、ドラッグストア（DS）、ホームセンター（HC）の主要事業の売り上げがいずれも伸びた。一方、電気代などのコストが膨らみ、営業、経常、純利益がいずれも減益となった。

3746億円 子会社化の店舗好調

バローHD売上高最高

損益面は、電気代が前年同期から15億円増えるなど水道光熱費の増加や店舗新設に伴う賃借料の増加があり、販売管理費が前年同期比6・0％増と利益を押し下げた。

SM事業は、生鮮と総菜部門の食品加工と卸売りに加え、前期に子会社化した関西地方の店舗が好調で、売上高は2・2％増。ただ、消費者の生活防衛意識の高まりや巣ごもり需要の反動減で、既存店売上高は2・1％減となった。

DS事業は、調剤薬局併設の店舗改装効果や、新型コロナウイルスの流行に伴う感染対策用品の需要増などで、売上高は4・8％増と伸びた。

HC事業は、電子商取引（EC）販売が好調で、増収を確保した。一方、既存店売上高は巣ごもり需要の反動減を受け1・1％減。

スポーツクラブ事業は、会員の月額料金の値上げやコロナ禍で休会した会員の減少があり、売上高は0・3％増の微増となった。

4～9月のグループ店舗は新設29店舗、閉鎖12店舗で、9月末の総店舗数は1311店舗となった。

23年3月期は販売促進や集客策の強化に加え、光熱費の削減を進め、増収増益を見込んでいる。

【注】単位は百万円、％、配当は円。（連）は連結（予）は2023年3月期予想。かつこ内は前年同期比増減率。▲はマイナス、■は損失。は未定。信和は国際会計基準（IFRS）のため、経常損益は税引前損益。